

## 文化財

当地区には、10の重要文化財がある。内訳は、国指定重要文化財が彫刻1、県指定重要文化財は彫刻2、天然記念物1、市指定重要文化財は彫刻3、書跡1、典籍1、天然記念物1である。

### 国指定重要文化財 木造千手観音坐像 一躯

慈恩寺 岐阜市溝口中 138-1

像高 103.3 cm、台座 33 cm

指定 大正3年8月25日

千手観音、大悲観音とも呼ばれる本像の正式名称は、千手千眼観自在菩薩である。千手の由来は、合掌する中央の2手の他に物を持つ40の手が作られ、1本の手で25の生命あるすべてのものを救う（ $40 \times 25 = 1000$ ）ということからきている。のちの時代に光背を造って、そこに千の手と、それぞれの手に眼を彫り込んでいる。

また、頭上には11面があるという大変複雑な形をした観音菩薩で、藤原時代後期の作といわれる。本像は、昭和47年（1972）に完成した本堂前の収蔵庫に祀られている。

寺伝によると、当寺は古くは天台宗の古刹であったが、現在は西山浄土宗である。文明年間（1469～1486）に、恵心作の阿弥陀如来像と津保萬願寺の伝教大師作の千手観音像と交換したものと伝えられている。



木造千手観音坐像収蔵庫

## 県指定重要文化財 木造阿弥陀如来立像 一軀

浄土寺 岐阜市福富 647-1

像高 97 cm 台座 53 cm

指定 昭和 43 年 3 月 27 日

阿弥陀仏、阿弥陀さんという言いかたもする仏さま（如来）である。

浄土寺（西山浄土宗）の本尊。

檜の寄木造り。顔は優雅な満月相で、切れ長の両眼、ほほの量感、衣の沈線に特徴がある。

印相は上品上生を結んだ来迎形。鎌倉時代初期の作と思われる。

弘安 3 年（1280）伊勢国富之郷の僧侶大空澤山が京都東福寺に詣った際、この阿弥陀如来から「吾を背おいて東に行くべし」と霊告があった。そこで像を携えてこの地に来て小堂を建て安置した。

これより、この地を、大空澤山の出身地の伊勢富之郷の「富」と東福寺の「福」をとって、福富というようになったと伝わる。

正応 2 年（1289）に浄土寺の伽藍が整い、本尊としてお祀りしたと伝わっている。



木造阿弥陀如来立像

## 県指定重要文化財 木造聖観音立像 一軀

浄土寺 岐阜市福富 647-1

像高 174.2 cm

指定 昭和 43 年 3 月 27 日

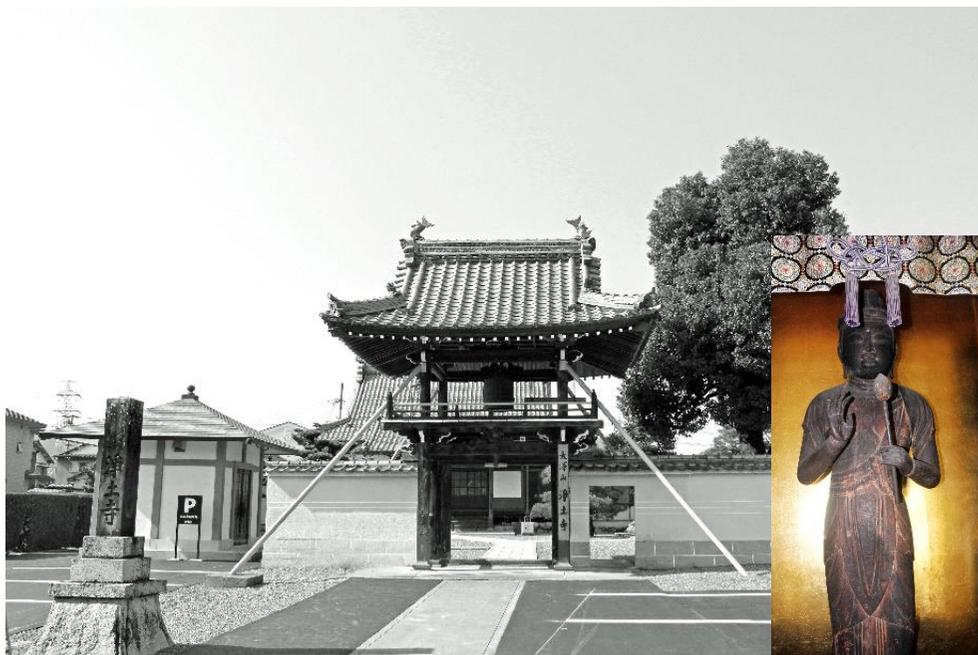
観音さん、聖観音という言いかたもする仏さま（菩薩）である。

檜の寄木造り。藤原時代（894～1185 頃）後期（平安時代後期）の作と思われる。

顔は優美で明晰な目鼻立ち、全体の伸びやかさに特徴がある。

本像は、もとは京都比叡山西谷浄土院にあった。寛永年間（1624～1644）に浄土寺の吟龍が詣でた折、霊告に基づき浄土寺に移した。境内の観音堂にお祀りしていたが、濃尾震災（明治 24 年）以降は本堂に安置されている。福富地区の信仰の中心となっている。

岐阜県博物館（関市百年公園）に本像のレプリカが常設展示されている。



浄土寺山門及び本堂、

木造聖観音立像

市指定重要文化財 木造薬師如来坐像（円空仏）一躯  
木造尼僧坐像 （円空仏）一躯

薬師寺 岐阜市中屋 241

薬師如来 像高 97 cm

尼僧 像高 71.5 cm

指定 昭和 34 年 10 月 30 日

円空上人は、寛永 9 年（1632）羽島郡上中町（現在の羽島市）で生まれ、62 歳で亡くなるまでの間に本県内をはじめ全国各地を遍歴して 12 万體もの仏像を彫ったといわれている。

その木彫りは「円空仏」の名で知られ、全国各地で発見されている。

円空上人制作の仏像は、優れた芸術作品でもあり、その独特な作風は素朴で親しみやすい。

この 2 つの像は、岐阜市内にあるものの中では法量豊かな好作品で、円空上人の代表的な作といわれている。



薬師寺



木造薬師如来坐像



木造尼僧坐像

### 市指定重要文化財 大般若経 (300 卷)

上諏訪神社 岐阜市太郎丸諏訪 957-1

指定 昭和 46 年 8 月 10 日

大般若経は、唐の玄奘の漢訳にかかるもので、諸仏皆空の義を説いたものである。この経を書写読誦すれば大きな功德があるといわれている。

上諏訪神社にある大般若経は完本ではない。全 600 巻あるうちの約半数は散失している。

約 300 巻あるうち奥書のあるものが 24 巻ほどあり、古くは保延 6 年 (1140) のものがある。最も新しいものは明応 2 年 (1493) のもので、写経と木版経が混在している。その多くは谷汲山華嚴寺のものである。

この大般若経は現在、岐阜市歴史博物館に保管されている。



上諏訪神社 大般若経



大般若經（岐阜市歴史博物館収蔵）

市指定重要文化財 紙本墨書唄銘白隠筆

少林寺 岐阜市福富 1072

指 定 昭和 49 年 7 月 10 日

この作品は、唄銘といい白隠の座右の銘を示したものである。

「それ人は理に明らかなればすなわち、唄りなし、理に昏ければ、唄りを発す……」上記はそのポイントとなる部分であり「唄」とは怒りを指し、怒りを治めるためには理が必要であり、それが



小林寺

紙本墨書唄銘 白隠筆

出来ないのは、自分自身の不徳によるものであると説く。

右肩に白字三文字の長い卵形印、左下に朱字白隠の高炉印が押されている。

「慧鶴」の方印が押されているが、署名はない。この書は白隠禅師晩年のもので個人的な力強い筆跡のよく表れた作品で、遺作中でも優作と認められている。

白隠は、江戸時代中期（1685～1768）の臨濟宗妙心寺派の僧で、臨濟禅の中興の祖といわれている。15歳のとき出家、慧鶴（えかく）と名付けられた。

「駿河には過ぎたるものが二つあり、富士のお山に原の白隠」と謳われた。

市指定重要文化財 木造大日如来坐像 木札付き

醍醐寺 岐阜市石原3丁目60

指定 昭和60年7月22日

像高 135 cm



木造大日如来坐像収蔵庫（醍醐寺）

大日如来は、密教の最も高い位にいる仏さまである。本像は、その昔醍醐山安養寺にあったもので、応仁・文明の乱（1467～1477）により寺が焼失したとき、住民たちが持ち出し土中に埋め守った。寛文6年（1666）に掘り出して一棟を建て安置したものである。現在は、境内にある大日堂に祀られている。

彫刻は、檜材を用いた一木造りで、頭部と体部を彫り出して内部をくり抜く方法で作られた胎蔵界の像で、平安時代後期の作である。

また、当時の経緯を書いた墨書の木札は、歴史的にも貴重な資料といわれるもので、像とともに市の重要文化財に指定されている。

## 県指定天然記念物 白山神社のスギ

白山神社 岐阜市福富 2011-1

指定 昭和 43 年 3 月 27 日

白山神社は 700 年余の歴史を持ち、昭和 32 年には、銀幣社に昇格した福富地区の村社である。境内には、赤マツ、シイ、ヒノキ、スギなどが茂っている。その中で一際目を引くのが参道右側のスギの巨木である。

今から 600 年ほど前にこの地方に疫病が発生した。ある老婆が白山神社に日夜祈祷したところ、不思議にも村の疫病が回復した。感謝の気持ちで植えた杉の苗木が、この巨木になったと伝えられる。

根本の周囲は 7m、木の高さが 30m 程ある。樹齢はおよそ 600 年と推定されるが、樹勢はきわめて旺盛であり、ご神木として保護されている。



白山神社のスギ

## 市指定天然記念物 天満神社シイ

天満神社 岐阜市福富 2137

指定 平成元年 5 月 20 日

菅原道真公を祭神とする天神さまの境内にこの老木はある。樹齢は推定 200 年、地上 30cm ほどのところで二又に分かれている。2 本の木が寄り添うように生えているようにも見える。

木の根元の周りは 4.6m、高さは 15m あり、一方の幹の樹勢は盛んであるが、もう一方は補修がしてある。しかし、このシイは他に類を見ない貴重な巨木といえる。



天満神社のシイ